

トヨタ紡織安全基準

制定 2008 年 3 月 10 日

改正 2020 年 3 月 2 日

承認	審査	起案責任者
平	川上	竹中
原紙承認済		

法定定期自主検査実施要領

1. 原案作成

責任者： グローバル安全衛生環境部 平 傑

担当者： 安全衛生推進室 竹中 滉登

2. 審議

監査役室、新領域開拓部、経営企画部、渉外広報部、秘書部、監査改良室、法務部、グローバル人材開発部、総務部、経理部、BR業務改革推進室、ユニット部品事業戦略企画部、ユニット部品営業部、ユニット部品開発部、ユニット部品技術部、FPT生技部、ユニット部品生技部、新価値創造センター、車室空間開発部、空間システム開発部、要素技術開発部、ビジネスマネジメント部、IT推進部、シート事業戦略企画部、シート事業マネジメント部、シート営業部、シート実験部、シート品質改善部、シート製品統括部、シートSSセンター、コンパリアートシート先行開発部、SAT推進部、第1シート設計部、第2シート設計部、第3シート設計部、シートカバー技術開発部、シートシステム先行開発部、シート骨格先行開発部、Frシート骨格機能品開発部、Rrシート骨格開発部、Rrシート機能品開発部、シート生技部、シート骨格生技部、シート機能品生技部、内外装事業戦略企画部、内外装営業部、内装製品企画部、内外装先行開発部、内外装実験部、ドアトリム設計部、内外装トリム設計部、内外装生技部、事業企画部、営業企画部、製品開発部、ACT推進部、ACT生技部、日本地域本部、日本地域事業統括部、日本地域生産統括部、BR-PLM推進室、技術管理部、デザイン部、材料技術開発部、試作部、グローバル調達推進部、TQM推進室、生技管理部、生産企画部、生産管理部、新製品進行管理部、生産調査部、技能育成推進部、技能伝承部、繊維開発部、品質保証部、刈谷工場、刈谷工場工務部、刈谷工場品質管理部、刈谷工場製造部、猿投工場、猿投工場 猿投技術員室、猿投工場工務部、猿投工場品質管理部、猿投工場シート製造部、猿投工場内装製造部、大口岐阜工場、大口岐阜工場工務部、大口岐阜工場品質管理部、大口製造部、岐阜製造部、高岡工場、高岡工場工務部、高岡工場品質管理部、高岡工場製造部、豊橋工場、豊橋工場工務部、豊橋工場品質管理部、豊橋工場製造部、関東工場、富士裾野製造部、東京製造部、東京支社、大阪営業所

3. 履歴管理

改正回数	制定・改正	改正内容	承認	特記事項
第1回	2008.04.10 改正	第二種圧力容器の追加	古谷	
第2回	2010.07.01 改正	①内容の明確化 ②アセチレン溶接装置又はガス集合溶接装置 除じん装置、排ガス処理装置、廃液処理装置、 ガンマ線照射装置、小型圧力容器の追加	古谷	
第3回	2010.12.01 改正	[別表23]の内容一部変更	古谷	
第4回	2011.06.30 改正	「BSA311610コードリール安全基準」制定に伴い、本基準[別表28]にコードリール点検要領を追加	古谷	
第5回	2013.02.14 改正	①安全-077「法定定期自主検査実施計画・実績表（事務局用）」の廃止 ②①による帳票ルート・帳票保管ルールの変更 フロー図の修正、安全帳票（安全-076）の修正 ③帳票提出先の明確化（設備設置の事業所） ④別表1に「法定外自主検査」追加 ⑤別表23・24に「地震・強風後点検」	藤根	
第6回	2013.09.16 改正	クレーン（吊上荷重3.0t以上）の年次定期自主検査の頻度を変更	藤根	
第7回	2014.09.01 改正	[別表4]フォークリフト一部名称変更	藤根	

第8回	2019.03.21 改正	①安全-066「天井クレーンワイヤーロープ月例 点検報告書」を新規制定 ②各作業前点検表を一部改正 ③部署名等の軽微な変更	平	
第9回	2020.03.02 改正	①運用フローを変更 ②①に合わせて「法定定期自主検査実施計画・実績 表」（安全-076）を修正 ③油漏れの環境ヒヤリを受け、フォークリフト月次定 期自主検査表（安全-112）へ「部品・油脂類のメー カー推奨頻度超過」の確認項目を追加	平	

※この基準は制定後ただちに実施する

書面審議調整結果報告書						調整(立案)部署		
規定No. BSA071000		規定名称 法定定期自主検査実施要領				グローバル安全衛生環境部 安全衛生推進室		
						承認	審査	起案責任者
						平	川上	竹中
						原紙承認済		
項	項目	部署	意見	採用	不採用	処置方法または不採用の理由		
5	1)-(1)	刈谷工場工務部	計画部署から事業場安全衛生事務局へ計画表を提出する際、「原紙及びデータにて提出」とあるが、データの提出が不要	○		データで提出して欲しい事務局もあると思いますので、「原紙もしくはデータにて提出」に変更します。		
5	1)-(3)	刈谷工場工務部	計画表に不備があった場合、G安環部は起案部署へ連絡となっているが、事業場安全衛生事務局へ連絡としてほしい(合わせて26ページのフローも修正)	○		ご指摘に従い修正します。		
5	4)-(2)	刈谷工場工務部	計画・実績表は写しで保管となっているが、データで保管したい(合わせて計画表の保管期間はデータで3年としたい)	○		ご指摘内容を加味し、「写しもしくはデータにて保管」とします。		

※「採用」「不採用」いずれかに「○」のこと



分類

名称

総則編

法定定期自主検査実施要領

1. 目的

この要領は、労働安全衛生法に基づく一般機械及び特定機械の法定定期自主検査を実施するために適用する。

2. 関係法規

労働安全衛生法

— 労働安全衛生法施行令【安衛令】
— 労働安全衛生規則【安衛則】
— ボイラー及び圧力容器安全規則【ボイ則】
— クレーン等安全規則【クレ則】

— 有機溶剤中毒予防規則【有機則】
— 特定化学物質障害予防規則【特化則】
— 粉じん障害防止規則【粉じん則】
— 鉛中毒予防規則【鉛則】
— 電離放射線障害防止規則【電離則】

3. 定義

この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、以下による。

- 1) 法定定期自主検査 … 下記2)～11)の検査及び点検のことをいう
- 2) 年次定期自主検査 … 当該機械設備等について、1年以内ごとに1回行わなければならない検査をいう（機械設備によっては2年以内ごとに1回、6ヶ月以内ごとに1回行うものもある）
- 3) 特定自主検査 … 年次定期自主検査を行わなければならない機械設備のうち、特定の機械設備について、一定の資格を持つ検査者を実施させなければならない検査をいう
- 4) 性能検査 … 特定機械設備等の「検査証」の有効期間を更新するための検査をいう
- 5) 月次定期自主検査 … 当該機械設備等について、1ヶ月以内ごとに1回行わなければならない検査をいう
- 6) 作業開始前点検 … その日の作業を開始する前に行う簡易検査をいう
- 7) 使用再開時自主検査 … 使用停止していた当該機械設備を再び使用開始する時に行う検査をいう
- 8) 初使用時点検 … 設置後、はじめて当該機械設備を使う時に行う簡易検査をいう
- 9) 改造・修理時点検※1 … 当該機械設備を分解して改造もしくは修理を行った時に行う簡易検査をいう
- 10) 用途変更時点検 … 当該機械設備の用途（使用する原材料を含む）を変更した時に行う簡易検査をいう
- 11) 地震・強風後点検 … クレーンを用いて震度4以上の地震の後に作業を行うとき、又は屋外に設置されているクレーンを用いて瞬間風速が毎秒30mを超える風が吹いた後に作業を行うときに実施する検査をいう

※1 分解して改造もしくは修理を行ったことによって当該設備の「改造・修理時点検」の検査項目に記載されている部位・性能に影響を及ぼし、組み立て後、不具合を起こす恐れがある場合に実施する

法定定期自主検査

— 年次定期自主検査
— 特定自主検査
— 性能検査
— 月次定期自主検査
— 作業開始前点検
— 使用再開時自主検査
— 初使用時点検
— 改造・修理時点検
— 用途変更時点検
— 地震・強風後点検

1年以内に1回実施するもの
検査標章または検査証の有効期間内に
実施するもの

1ヶ月以内に1回実施するもの
作業開始前に実施するもの

当該事象が起きた場合に
実施するもの

関連標準

BSA250511

制 定

2008年 3月 10日

9 回改正

2020年 3月 2日



4. 対象設備

法定定期自主検査の対象となる設備は、以下に掲げるものとする。詳細は、各種[別表]を参照し、該当する場合、法定定期自主検査を実施する。（該当するか不明な場合は、メーカーに問い合わせをする）

凡例 ◎：所轄労働基準監督署に申請し、外部機関に依頼し実施するもの（社内での実施不可）

○：検査者の条件を満たしている者であれば、社内で実施できるもの

（該当者がいない場合、メーカーに依頼する）

●：当該検査項目の可否判断ができる者であれば、社内で実施できるもの

（該当者がいない場合、メーカーに依頼する）

－：法定定期自主検査の実施不要

	対象設備	年次定期自主検査、 特定自主検査、 性能検査	月次定期 自主検査	作業開始 前点検	その他の 自主検査	詳細
1	動力プレス	○【特定】	－	●	○	[別表1]
2	動力シャー	●【年次】	－	●	●	[別表2]
3	動力遠心機械	●【年次】	－	－	●	[別表3]
4	フォークリフト	○【特定】	●	●	○	[別表4]
5	高所作業車	○【特定】	●	●	○	[別表5]
6	構内運搬車	－	－	●	－	[別表6]
7	乾燥設備及びその附属設備	●【年次】	－	－	●	[別表7]
8	化学設備及びその附属設備	●【年次】	－	－	●	[別表8]
9	特定化学設備又はその附属 設備	●【年次】	－	－	●	[別表9]
10	アセチレン溶接装置又は ガス集合溶接装置	●【年次】	－	－	●	[別表10]
11	絶縁用保護具等	●【年次】	－	－	●	[別表11]
12	電気機械器具等	－	－	●	－	[別表12]
13	局所排気装置	○【年次】	●	－	○	[別表13]
14	プッシュプル型換気装置	○【年次】	●	－	○	[別表14]
15	除じん装置	○【年次】	●	－	○	[別表15]
16	排ガス処理装置、廃液処理装置	●【年次】	●	－	●	[別表16]
17	ガンマ線照射装置	●【年次】	●	－	●	[別表17]
18	ボイラー	◎【性能】	●	－	●	[別表18]
19	小型ボイラー	●【年次】	－	－	●	[別表19]
20	第一種圧力容器	◎【性能】	●	－	●	[別表20]
21	第二種圧力容器	●【年次】	－	－	●	[別表21]
22	小型圧力容器	●【年次】	－	－	●	[別表22]
23	クレーン（吊上荷重 3.0 t 以上）	◎【性能】 ●【年次】	●	●	●	[別表23]
	クレーン（吊上荷重 0.5 t 以上3.0 t 未満）	●【年次】	●	●	●	[別表24]
24	エレベーター（積載荷重 1.0 t 以上）	◎【性能】	●	－	●	[別表25]
	エレベーター（積載荷重 0.25 t 以上1.0 t 未満）	●【年次】	●	－	●	[別表26]
25	簡易リフト（積載荷重 0.25 t 以上）	●【年次】	●	●	●	[別表27]
26	コードリール	●【年次】	－	●	－	[別表28]



5. 法定定期自主検査実施計画の立案及び運用

1) 法定定期自主検査実施計画の立案

(1) 設備管理部署または設備使用部署は、毎年3月に翌年度の法定定期自主検査実施計画（作業開始前点検を除く）を協議のうえ立案し、「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）を作成し設備が設置されている事業場の安全衛生事務局へ原紙またはデータにて提出する。

（設備管理部署または設備使用部署が管理・使用する設備が複数の事業場にまたがる場合は、事業場ごとに作成し、それぞれの事業場安全衛生事務局へ提出する）

* 承認は室長・課長以上とする。以下同様。

(2) 事業場安全衛生事務局は、設備管理部署または設備使用部署から受領した「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）の内容を確認のうえ確認印を押して写しを取り、原紙を設備管理部署または設備使用部署へ返却する。また、事業場分をとりまとめてデータをグローバル安全衛生環境部に提出する。

(3) グローバル安全衛生環境部は、事業場安全衛生事務局から受領した「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）の内容を確認のうえ、不足があれば事業場安全衛生事務局へ連絡し、修正を依頼する。

2) 運用

(1) 法定定期自主検査は、設備管理部署または設備使用部署にて実施（外部業者に依頼）する。

(2) 設備管理部署または設備使用部署は、法定定期自主検査を行った結果、異常を認めた（検査表等で不具合項目があった）ときは、設備の使用を中止し、直ちに補修その他必要な措置を講じること。

(3) 法定定期自主検査を行った際、設備管理部署または設備使用部署は「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）に実績を記入する。

(4) 事業場安全衛生事務局は、法定定期自主検査について計画にそった実施及びその補修が行われているかを定期的に確認する。

(5) 設備管理部署または設備使用部署は、毎年4月及び10月に、実績を記入した「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）の原紙及びデータを、設備が設置されている事業場の事業場安全衛生事務局へ提出する。

(6) 事業場安全衛生事務局は、設備管理部署または設備使用部署から受領した「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）の内容を確認のうえ確認印を押して写しを取り、原紙を設備管理部署または設備使用部署へ返却する。



3) 使用帳票

法定定期自主検査を行う帳票は、安全帳票（下表参照）によって定めるが、各種検査及び点検における検査項目（法規上で定められた項目）が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可とする。（検査項目に漏れがなければメーカー提示のものでも独自で作成したものでもよい）

表内No.は「安全帳票No.」

	対象設備	年次定期自主検査、 特定自主検査、 性能検査	月次定期 自主検査	作業開始 前点検	その他の 自主検査	詳細
1	動力プレス	安全-059	—	安全-058	安全-059	[別表1]
2	動力シャー	安全-061	—	安全-060	安全-061	[別表2]
3	動力遠心機械	安全-062	—	—	安全-062	[別表3]
4	フォークリフト	安全-111	安全-112	安全-113	安全-111	[別表4]
5	高所作業車	安全-114	安全-115	安全-116	安全-114	[別表5]
6	構内運搬車	—	—	安全-057	—	[別表6]
7	乾燥設備及びその附属設備	安全-063	—	—	安全-063	[別表7]
8	化学設備及びその附属設備	安全-064	—	—	安全-064	[別表8]
9	特定化学設備又はその附属設備	安全-067	—	—	安全-067	[別表9]
10	アセチレン溶接装置又は ガス集合溶接装置	安全-129	—	—	安全-129	[別表10]
11	絶縁用保護具等	—	—	—	—	[別表11]
12	電気機械器具等	—	—	安全-065	—	[別表12]
13	局所排気装置	安全-117	安全-118	—	安全-117 安全-119	[別表13]
14	プッシュプル型換気装置	安全-120	安全-121	—	安全-120 安全-122	[別表14]
15	除じん装置	安全-123	安全-124	—	安全-123 安全-125	[別表15]
16	排ガス処理装置、廃液処理装置	安全-126	安全-127	—	安全-126	[別表16]
17	ガンマ線照射装置	安全-130	安全-131	—	安全-130 安全-131	[別表17]
18	ボイラー	—	安全-068	—	安全-068	[別表18]
19	小型ボイラー	安全-069	—	—	安全-069	[別表19]
20	第一種圧力容器	—	安全-070	—	安全-070	[別表20]
21	第二種圧力容器	安全-093	—	—	安全-093	[別表21]
22	小型圧力容器	安全-128	—	—	安全-128	[別表22]
23	クレーン（吊上荷重 3.0 t 以上）	—	安全-066	安全-071	安全-072	[別表23]
	クレーン（吊上荷重 0.5 t 以上3.0 t 未満）	—	安全-066	安全-071	安全-072	[別表24]
24	エレベーター（積載荷重 1.0 t 以上）	—	—	—	—	[別表25]
	エレベーター（積載荷重 0.25 t 以上1.0 t 未満）	—	—	—	—	[別表26]
25	簡易リフト（積載荷重 0.25 t 以上）	—	安全-075	安全-074	安全-075	[別表27]
26	コードリール	安全-055	—	安全-056	—	[別表28]

4) 保管

- (1) 「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）・「各種検査表」・「各種点検表」の原紙は、設備管理部署または設備使用部署が保管する。
- (2) 事業場安全衛生事務局は「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）の写しもしくはデータを保管する。
- (3) 「法定定期自主検査実施計画・実績表」（安全-076）・「各種検査表」・「各種点検表」の保管年数は、3年とする。（ただし「作業開始前の点検表」は1年とする）

5) フロー

前記1)～4)のフロー図を[別表29]にて示す。

6. 検査標章の表示【安衛則第135条の3】【安衛則第151条の24】【安衛則第194条の26】

動力プレス、フォークリフト、高所作業車において特定自主検査を行ったときは、当該機械の見やすい箇所に検査を行った年月を記入した「検査標章」を貼り付けなければならない。

7. 検査証の表示【クレ則第16条】【クレ則第147条】

クレーン、エレベーターにおいて性能検査を行ったときは、当該機械の見やすい箇所に「検査証」を貼り付ける。



[別表1]動力プレス

項目		詳細	
動力プレスの定義		2個以上の対をなす工具を用い、それらの工具間に加工材を置いて工具に関係運動を行わせ、工具によって加工材に強い力を加えることによって、加工材を成形加工する機械で、かつ、工具間に発生させる力の反力を機械自体で支えるように設計されている機械。	
法定 定期 自主 検査	特定自主検査 【安衛則 第134条の3】 【安衛則 第135条の3】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	検査者の条件1欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	動力プレス特定自主検査表（安全-059）
		検査項目	①クランクシャフト、フライホイールその他動力伝達装置の異常の有無 ②クラッチ、ブレーキその他制御系統の異常の有無 ③一行程一停止機構、急停止機構及び非常停止装置の異常の有無 ④スライド、コネクティングロッドその他スライド関係の異常の有無 ⑤電磁弁、圧力調整弁その他空圧系統の異常の有無 ⑥電磁弁、油圧ポンプその他油圧系統の異常の有無 ⑦リミットスイッチ、リレーその他電気系統の異常の有無 ⑧ダイクッション及びその附属機器の異常の有無 ⑨スライドによる危険を防止するための機構の異常の有無
	法定外自主検査	頻度・検査者・使用帳票は特定自主検査と同じ	
		検査項目	メインモータ異常の有無（絶縁抵抗値の確認）
	月次定期自主検査	-	
	作業開始前点検 【安衛則第136条】	頻度	作業を開始する前
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	動力プレス作業開始前点検表（安全-058）
	検査項目	①クラッチ及びブレーキの機能 ②クランクシャフト、フライホイール、スライド、コネクティングロッド及びコネクティングスクリューのボルトのゆるみの有無 ③一行程一停止機構、急停止機構及び非常停止装置の機能 ④スライド又は刃物による危険を防止するための機構の機能 ⑤金型及びボルスターの状態	
使用再開時自主検査 【安衛則 第134条の3】	頻度	1年を超える期間使用しない動力プレスについて、その使用を再び開始する際	
	検査者	検査者の条件1欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼）	
	使用帳票	動力プレス特定自主検査表（安全-059）	
	検査項目	特定自主検査欄に掲げる①～⑨の事項	
検査者の条件	【安衛則第135条の3】 以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修（動力プレス特定自主検査事業内検査者研修）を修了した者		
	①大学又は高等専門学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、動力プレスの点検もしくは整備の業務に2年以上従事し、又は動力プレスの設計もしくは工作の業務に5年以上従事した経験を有する者		
	②高等学校又は中等教育学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、動力プレスの点検もしくは整備の業務に4年以上従事し、又は動力プレスの設計もしくは工作の業務に7年以上従事した経験を有する者		
	③動力プレスの点検もしくは整備の業務に7年以上従事し、又は動力プレスの設計もしくは工作の業務に10年以上従事した経験を有する者		
	④プレス機械作業主任者技能講習を修了した者で、動力プレスによる作業に10年以上従事した経験を有する者		



[別表2] 動力シャー

項目		詳細
動力シャーの定義		受け刃等に対して垂直に動く真直な、又は角度をもった刃部を備え原材料をせん断又はさい断するために使用する機械。なお、スライサ、スリッタ及び回転切断機は、シャーには該当しない。
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【安衛則第135条】	頻度 1年以内ごとに1回
		検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力シャー年次定期自主検査表 (安全-061)
		検査項目 ①クラッチ及びブレーキの異常の有無 ②スライド機構の異常の有無 ③一行程一停止機構、急停止機構及び非常停止装置の異常の有無 ④電磁弁、減圧弁及び圧力計の異常の有無 ⑤配線及び開閉器の異常の有無
		月次定期自主検査 -
	作業開始前点検 【安衛則第136条】	頻度 作業を開始する前
		検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力シャー作業開始前点検表 (安全-060)
		検査項目 ①クラッチ及びブレーキの機能 ②クランクシャフト、フライホイール、スライド、コネクティングロッド及びコネクティングスクリュウのボルトのゆるみの有無 ③一行程一停止機構、急停止機構及び非常停止装置の機能 ④スライド又は刃物による危険を防止するための機構の機能 ⑤刃物及びテーブルの状態
		使用再開時自主検査 【安衛則第135条】
	頻度 1年を超える期間使用しない動力シャーについて、その使用を再び開始する際	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力シャー年次定期自主検査表 (安全-061)
		検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項

[別表3] 動力遠心機械

項目		詳細
動力遠心機械の定義		遠心分離機、遠心脱水機等遠心力を利用して内容物の分離、脱水等を行う機械。
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【安衛則第141条】	頻度 1年以内ごとに1回
		検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力遠心機械年次定期自主検査表 (安全-062)
		検査項目 ①回転体の異常の有無 ②主軸の軸受部の異常の有無 ③ブレーキの異常の有無 ④外わくの異常の有無 ⑤前記①～④に掲げる部分のボルトのゆるみの有無
		月次定期自主検査 -
	作業開始前点検 【安衛則第141条】	頻度 1年を超える期間使用しない動力遠心機械について、その使用を再び開始する際
		検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力遠心機械年次定期自主検査表 (安全-062)
		検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項
		使用再開時自主検査 【安衛則第141条】
	頻度 1年を超える期間使用しない動力遠心機械について、その使用を再び開始する際	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票 動力遠心機械年次定期自主検査表 (安全-062)
		検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項



[別表4]フォークリフト

項目		詳細	
フォークリフトの定義		フォーク、ラムなど荷を積載する装置及びこれを昇降させるマストを備えた動力付き荷役運搬車両。	
法定定期自主検査	特定自主検査 【安衛則 第151条の21】 【安衛則 第151条の24】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	検査者の条件欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	フォークリフト特定自主検査表（安全-111）
		検査項目	①圧縮圧力、弁すき間その他原動機の異常の有無 ②デファレンシャル、プロペラシャフトその他動力伝達装置の異常の有無 ③タイヤ、ホイールベアリングその他走行装置の異常の有無 ④かじ取り車輪の左右の回転角度、ナックル、ロッド、アームその他操縦装置の異常の有無 ⑤制動能力、ブレーキドラム、ブレーキシューその他制動装置の異常の有無 ⑥フォーク、マスト、チェーン、チェーンホイールその他荷役装置の異常の有無 ⑦油圧ポンプ、油圧モーター、シリンダー、安全弁その他油圧装置の異常の有無 ⑧電圧、電流その他電気系統の異常の有無 ⑨車体、ヘッドガード、バックレスト、警報装置、方向指示器、灯火装置及び計器の異常の有無
	月次定期自主検査 【安衛則 第151条の22】	頻度	1ヶ月以内ごとに1回
	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者	
	使用帳票	フォークリフト月次定期自主検査表（安全-112）	
	検査項目	①制動装置、クラッチ及び操縦装置の異常の有無 ②荷役装置及び油圧装置の異常の有無 ③ヘッドガード及びバックレストの異常の有無 ④定期交換部品・消耗品及び油脂類のメーカー推奨交換頻度超過の有無	
法定定期自主検査	作業開始前点検 【安衛則 第151条の25】	頻度	作業を開始する前
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	フォークリフト作業開始前点検表（安全-113）
		検査項目	①制動装置及び操縦装置の機能 ②荷役装置及び油圧装置の機能 ③車輪の異常の有無 ④前照灯、後照灯、方向指示器及び警報装置の機能
	使用再開時自主検査 【安衛則 第151条の21】 【安衛則 第151条の22】	頻度	1ヶ月または1年を超える期間使用しないフォークリフトについて、その使用を再び開始する際
	検査者	検査者の条件欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼）	
	使用帳票	（1年を超えた場合） フォークリフト特定自主検査表（安全-111） （1ヶ月を超えた場合） フォークリフト月次定期自主検査表（安全-112）	
	検査項目	①（1年を超えた場合）特定自主検査欄に掲げる①～⑨の事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次自主検査欄に掲げる①～③の事項	
検査者の条件	【安衛則第151条の24】 以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修（フォークリフト事業内検査者研修）を修了した者		
	①大学又は高等専門学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、フォークリフトの点検もしくは整備の業務に2年以上従事し、又はフォークリフトの設計もしくは工作の業務に5年以上従事した経験を有するもの		
	②高等学校又は中等教育学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、フォークリフトの点検もしくは整備の業務に4年以上従事し、又はフォークリフトの設計もしくは工作の業務に7年以上従事した経験を有するもの		
	③フォークリフトの点検もしくは整備の業務に7年以上従事し、又はフォークリフトの設計もしくは工作の業務に10年以上従事した経験を有する者		
	④フォークリフトの運転の業務に10年以上従事した経験を有する者		



[別表5] 高所作業車

項目	詳細	
高所作業車の定義	高所における工事、点検、補修等の作業に使用される機械であって作業床及び昇降装置その他の装置により構成され作業床が動力を用いて上昇下降をし、かつ不特定の場所に自走することができる作業車。	
法定 定期 自主 検査	特定自主検査 【安衛則 第194条の23】 【安衛則 第194条の26】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査者の条件 欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 高所作業車特定自主検査表（安全-114） 検査項目 ①圧縮圧力、弁すき間その他原動機の異常の有無 ②クラッチ、トランスミッション、プロペラシャフト、デファレンシャルその他動力伝達装置の異常の有無 ③起動輪、遊動輪、上下転輪、履帯、タイヤ、ホイールベアリングその他走行装置の異常の有無 ④かじ取り車輪の左右の回転角度、ナックル、ロッド、アームその他操縦装置の異常の有無 ⑤制動能力、ブレーキドラム、ブレーキシューその他制動装置の異常の有無 ⑥ブーム、昇降装置、屈折装置、平衡装置、作業床その他作業装置の異常の有無 ⑦油圧ポンプ、油圧モーター、シリンダー、安全弁その他油圧装置の異常の有無 ⑧電圧、電流その他電気系統の異常の有無 ⑨車体、操作装置、安全装置、ロック装置、警報装置、方向指示器、灯火装置及び計器の異常の有無
	月次定期自主検査 【安衛則 第194条の24】	頻度 1ヶ月以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 使用帳票 高所作業車月次定期自主検査表（安全-115） 検査項目 ①制動装置、クラッチ及び操作装置の異常の有無 ②作業装置及び油圧装置の異常の有無 ③安全装置の異常の有無
	作業開始前点検 【安衛則 第194条の27】	頻度 作業を開始する前 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 使用帳票 高所作業車作業開始前点検表（安全-116） 検査項目 ①制動装置の機能 ②操作装置の機能 ③作業装置の機能
	使用再開時自主検査 【安衛則 第194条の23】 【安衛則 第194条の24】	頻度 1ヶ月または1年を超える期間使用しない高所作業車について、その使用を再び開始する際 検査者 検査者の条件 欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 （1年を超えた場合） 高所作業車特定自主検査表（安全-114） （1ヶ月を超えた場合） 高所作業車月次定期自主検査表（安全-115） 検査項目 ①（1年を超えた場合）特定自主検査欄に掲げる①～⑨の事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次自主検査欄に掲げる①～③の事項
	【安衛則第194条の26】 以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修を修了した者 ①大学又は高等専門学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、高所作業車の点検もしくは整備の業務に2年以上従事し、又は高所作業車の設計もしくは工作の業務に5年以上従事した経験を有するもの ②高等学校又は中等教育学校において工学に関する学科を専攻して卒業した者で、高所作業車の点検もしくは整備の業務に4年以上従事し、又は高所作業車の設計もしくは工作の業務に7年以上従事した経験を有するもの ③高所作業車の点検もしくは整備の業務に7年以上従事し、又は高所作業車の設計もしくは工作の業務に10年以上従事した経験を有する者 ④高所作業車の運転の業務に10年以上従事した経験を有する者	

検査者の条件



[別表6] 構内運搬車

項目		詳細	
構内運搬車の定義		専ら荷を運搬する構造の自動車（長さが4.7m以下、幅が1.7m以下、高さが2.0m以下のもの）のうち、最高速度が15km/h以下のもの。	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査	-	
	月次定期自主検査	-	
	作業開始前点検	頻度	作業を開始する前
	【安衛則 第151条の63】	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	構内運搬車作業開始前点検表（安全-057）
		検査項目	①制動装置及び操縦装置の機能 ②荷役装置及び油圧装置の機能 ③車輪の異常の有無 ④前照灯、尾灯、方向指示器及び警音器の機能
	使用再開時自主検査	-	

[別表7] 乾燥設備及びその附属設備

項目		詳細
乾燥設備及びその 附属設備の定義 【安衛令第6条】		熱源を用いて火薬類取締法※1に規定する火薬類以外の物を加熱乾燥する※2 乾燥室及び乾燥器及びその附属設備のうち以下に掲げるもの ①危険物等に係る設備で、内容積が1 m ³ 以上のもの ②上記①の危険物等以外の物に係る設備で、熱源として燃料を使用するもの（その最大消費量が、固体燃料にあつては毎時10kg以上、液体燃料にあつては毎時10ℓ以上、気体燃料にあつては毎時1 m ³ 以上であるものに限る。）又は熱源として電力を使用するもの（定格消費電力が10kW以上のものに限る。） ※1、※2備考参照
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【安衛則第299条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 乾燥設備年次定期自主検査表（安全-063） 検査項目 ①内面及び外面並びに内部のたな、わく等の損傷、変形及び腐食の有無 ②危険物乾燥設備にあつては、乾燥に伴って生ずるガス、蒸気又は粉じんで爆発又は火災の危険があるものを排出するための設備の異常の有無 ③液体燃料又は可燃性ガスを熱源の燃料として使用する乾燥設備にあつては、燃焼室その他点火する箇所の換気のための設備の異常の有無 ④のぞき窓、出入口、排気孔等の開口部の異常の有無 ⑤内部の温度の測定装置及び調整装置の異常の有無 ⑥内部に設ける電気機械器具又は配線の異常の有無
	月次定期自主検査	－
	作業開始前点検	－
	使用再開時自主検査 【安衛則第299条】	頻度 1年を超える期間使用しない乾燥設備について、その使用を再び開始する際 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 乾燥設備年次定期自主検査表（安全-063） 検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑥の事項
	備考	※1 （火薬類取締法より） 火薬類とは、以下に掲げるものをいう。 ①黒色火薬その他硝酸塩を主とする火薬 ②無煙火薬その他硝酸エステルを主とする火薬 ③その他①又は②に掲げる火薬と同等に推進的爆発の用途に供せられる火薬であつて経済産業省令で定めるもの ※2 加熱乾燥の作業の範囲とは、「加熱することにより、乾燥物から水分、溶剤等を除去すること」をいう （ただし、加熱炉、溶融炉、電磁加熱器など加熱するが乾燥を目的としない構造のもの、または低温で使用する真空乾燥設備など加熱以外の方法により乾燥を行う構造のものは該当しない）



[別表8] 化学設備及びその附属設備

項目	詳細
化学設備及びその附属設備の定義 【安衛令第9条の3】	化学設備（安衛令別表第一に掲げる危険物（火薬類取締法に規定する火薬類を除く）を製造し、もしくは取り扱い、又はシクロヘキサノール、クレオソート油、アニリンその他の引火点が65℃以上の物を引火点以上の温度で製造し、もしくは取り扱う設備で、移動式以外のものをいい、アセチレン溶接装置、ガス集合溶接装置及び乾燥設備を除く）及びその附属設備
法定定期自主検査	年次定期自主検査 【安衛則第276条】
	頻度 2年以内ごとに1回
	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
	使用帳票 化学設備及びその附属設備年次定期自主検査表（安全-064）
	検査項目 ①爆発又は火災の原因となるおそれのある物の内部における有無 ②内面及び外面の著しい損傷、変形及び腐食の有無 ③ふた板、フランジ、バルブ、コック等の状態 ④安全弁、緊急しや断装置その他の安全装置及び自動警報装置の機能 ⑤冷却装置、加熱装置、攪拌装置、圧縮装置、計測装置及び制御装置の機能 ⑥予備動力源の機能 ⑦前記①～⑥に掲げるもののほか、爆発又は火災を防止するため特に必要な事項
	月次定期自主検査 作業開始前点検
	頻度 -
	使用再開時自主検査 【安衛則第276条】
	頻度 2年を超える期間使用しない化学設備及びその附属設備について、その使用を再び開始する際
	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
	使用帳票 化学設備及びその附属設備年次定期自主検査表（安全-064）
	検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑦の事項
初使用時点検、 改造・修理時点検等 【安衛則第277条】	頻度 化学設備及びその附属設備を初めて使用する時、分解して改造もしくは修理を行った時、又は引き続き1ヶ月以上使用しなかった時
	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
	使用帳票 化学設備及びその附属設備年次定期自主検査表（安全-064）
	検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑦の事項
用途変更時点検 【安衛則第277条】	頻度 化学設備及びその附属設備の用途の変更（使用する原材料の種類を変更する場合を含む）を行う時
	検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
	使用帳票 化学設備及びその附属設備年次定期自主検査表（安全-064）
	検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①④⑤の事項



[別表9] 特定化学設備又はその附属設備

項目	詳細	
特定化学設備又はその附属設備の定義 【安衛令第9条の3】	特定化学設備（特化則で定める特定第2類物質又は第3類物質を製造し、又は取り扱う設備で、移動式以外のもの）及びその附属設備	
法定定期自主検査	年次定期自主検査 【特化則第31条】	頻度 2年以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 特定化学設備又はその附属設備年次定期自主検査表（安全-067） 検査項目 <特定化学設備又はその附属設備（配管を除く）> ①設備の内部にあってその損壊の原因となるおそれのある物の有無 ②内面及び外面の著しい損傷、変形及び腐食の有無 ③ふた板、フランジ、バルブ、コック等の状態 ④安全弁、緊急しや断装置その他の安全装置及び自動警報装置の機能 ⑤冷却装置、加熱装置、攪拌装置、圧縮装置、計測装置及び制御装置の機能 ⑥予備動力源の機能 ⑦前記①～⑥までに掲げるもののほか、特定第2類物質又は第3類物質の漏えいを防止するため必要な事項 <配管> ①溶接による継手部の損傷、変形及び腐食の有無 ②フランジ、バルブ、コック等の状態 ③配管に近接して設けられた保温のための蒸気パイプの継手部の損傷、変形及び腐食の有無
	月次定期自主検査	—
	作業開始前点検	—
	使用再開時自主検査 【特化則第31条】	頻度 2年を超える期間使用しない特定化学設備又はその附属設備について、その使用を再び開始する際 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 特定化学設備又はその附属設備年次定期自主検査表（安全-067） 検査項目 ①（特定化学設備又はその附属設備の場合）年次定期自主検査欄に掲げる①～⑦の事項 ②（配管の場合）年次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
	初使用時点検、改造・修理時点検 【特化則第34条】	頻度 特定化学設備又はその附属設備を初めて使用する時、又は分解して改造もしくは修理を行った時 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 特定化学設備又はその附属設備年次定期自主検査表（安全-067） 検査項目 ①（特定化学設備又はその附属設備の場合）年次定期自主検査欄に掲げる①～⑦の事項 ②（配管の場合）年次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
	用途変更時点検 【特化則第34条】	頻度 特定化学設備又はその附属設備（配管を除く）の用途の変更（使用する原材料の種類を変更する場合を含む）を行なった時 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 特定化学設備又はその附属設備年次定期自主検査表（安全-067） 検査項目 ①設備の内部にあってその損壊の原因となるおそれのある物の有無 ②全弁、緊急しや断装置その他の安全装置及び自動警報装置の機能 ③冷却装置、加熱装置、攪拌装置、圧縮装置、計測装置及び制御装置の機能 ④用途の変更のために改造した部分の異常の有無



[別表10] アセチレン溶接装置又はガス集合溶接装置

項目		詳細	
アセチレン溶接装置 又はガス集合溶接装置 の定義		<アセチレン溶接装置><ガス集合溶接装置> 可燃性ガス（アセチレン、水素、プロパン・ブタンなどのLPガス、メタン、石炭ガス、都市ガス）と酸素を結び付け、燃焼する際に発生する熱を利用して金属の接合を行う装置。	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【安衛則第317条】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	アセチレン溶接装置・ガス集合溶接装置年次定期自主検査表（安全-129）
		検査項目	①当該装置の損傷の有無 ②当該装置の変形の有無 ③当該装置の腐食等の有無 ④当該装置の機能
	月次定期自主検査	-	
自主 検査	作業開始前点検	-	
	使用再開時自主検査 【安衛則第317条】	頻度	1年を超える期間使用しないアセチレン溶接装置又はガス集合溶接装置について、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	アセチレン溶接装置・ガス集合溶接装置年次定期自主検査表（安全-129）
		検査項目	①年次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項

[別表11] 絶縁用保護具等

項目		詳細	
絶縁用保護具等の定義 【安衛則第348条】		絶縁用保護具等とは、以下に掲げるものをいう。 ①高圧活線作業、高圧活線近接作業にて使用する絶縁用保護具 ②高圧活線作業、高圧活線近接作業にて使用する絶縁用防具 ③高圧活線作業、特別高圧活線作業、特別高圧活線近接作業にて使用する活線作業用装置 ④高圧活線作業、特別高圧活線作業にて使用する活線作業用器具 ⑤低圧活線作業、低圧活線近接作業の絶縁用保護具／活線作業用器具、低圧活線近接作業の絶縁用防具。（ただし、自主検査の対象は、交流で300Vを超える低圧の充電電路に対して用いられるものに限られる）	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【安衛則第351条】	頻度	6ヶ月以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可
		検査項目	①絶縁性能
	月次定期自主検査	-	
自主 検査	作業開始前点検	-	
	使用再開時自主検査 【安衛則第351条】	頻度	6ヶ月を超える期間使用しない絶縁用保護具等について、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可
		検査項目	①絶縁性能



[別表12] 電気機械器具等

項目		詳細	
電気機械器具等の定義 【安衛則第352条】		電気機械器具等とは、以下に掲げるものをいう。 ①溶接棒等のホルダー ②交流アーク溶接機用自動電撃防止装置 ③感電防止用漏電しゃ断装置 ④電動機械器具（電動機を有する機械または器具） ⑤移動電線及びこれに附属する接続器具 ⑥検電器具 ⑦短絡接地器具 ⑧〔別表9〕の絶縁用保護具等	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査	-	
	月次定期自主検査	-	
	作業開始前点検 【安衛則第352条】	頻度	作業を開始する前
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	電気機械器具等作業開始前点検表（安全-065）
		検査項目 以下に掲げる項目	
		電気機械器具等の種別	
		点検事項	
		①溶接棒等のホルダー	絶縁防護部分及びホルダー用ケーブルの接続部の損傷の有無
		②交流アーク溶接機用自動電撃防止装置	作動状態
		③感電防止用漏電しゃ断装置	
		④電動機械器具	接地線の切断、接地極の浮上がり等の異常の有無
		⑤移動電線及びこれに附属する接続器具	被覆又は外装の損傷の有無
		⑥検電器具	検電性能
		⑦短絡接地器具	取付金具及び接地導線の損傷の有無
		⑧〔別表9〕の絶縁用保護具等	ひび、割れ、破れその他の損傷の有無及び乾燥状態
	使用再開時自主検査	-	



[別表13]局所排気装置

項目	詳細	
局所排気装置の定義	作業点(有害物の発生源)に近いところに吸収力を設け、局部的かつ定常的な気流をつくり、その気流にのせて有害物が拡散する前に吸い込み、作業者が汚染気流に冒されないように搬送排出する装置。	
法定定期自主検査	年次定期自主検査 【有機則第20条】 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査者の条件欄に掲げる者(不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 局所排気装置年次定期自主検査表(安全-117) 検査項目 ①フード、ダクト及びファンの摩耗、腐食、くぼみその他損傷の有無及びその程度【共通】 ②ダクト及び排風機におけるじんあいのたい積状態【有機、特化、鉛】 ③ダクト及び排風機における粉じんのたい積状態【粉じん】 ④排風機の注油状態【有機】 ⑤ダクトの接続部における緩みの有無【共通】 ⑥電動機とファンを連結するベルトの作動状態【共通】 ⑦吸気及び排気的能力【共通】 ⑧前記①～⑦に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項【共通】 ⑨「局所排気装置の定期自主検査指針」に関する項目
	月次定期自主検査 【有機則第19条の2】 【特化則第28条】 【鉛則第34条】 【粉じん則】※	頻度 1ヶ月以内ごとに1回(鉛の場合は、1週間以内ごとに1回) 検査者 当該作業主任者 使用帳票 局所排気装置月次定期自主検査表(安全-118) 検査項目 ①装置の主要部分の損傷 ②装置の主要部分の脱落 ③装置の主要部分の腐食 ④異常音の有無 ⑤局所排気装置の効果の確認
	作業開始前点検	-
	使用再開時自主検査 【有機則第20条】 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年を超える期間使用しない局所排気装置について、その使用を再び開始する際 検査者 検査者の条件欄に掲げる者(不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 局所排気装置年次定期自主検査表(安全-117) 検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑨の事項
	初使用時点検、 改造・修理時点検 【有機則第22条】 【特化則第33条】 【粉じん則第19条】 【鉛則第37条】	頻度 局所排気装置を初めて使用する時、又は分解して改造もしくは修理を行った時 検査者 検査者の条件欄に掲げる者(不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 <有機溶剤、鉛の場合> 局所排気装置初使用時等点検表(安全-119) <特定化学物質、粉じんの場合> 局所排気装置年次定期自主検査表(安全-117) 検査項目 <有機溶剤、鉛の場合> ①ダクト及び排風機におけるじんあいのたい積状態 ②ダクトの接続部における緩みの有無 ③吸気及び排気的能力 ④前記①～③に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項 <特定化学物質、粉じんの場合> ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑧の事項
	以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修(局所排気装置等定期自主検査者研修)を修了した者	
	①衛生工学衛生管理者の免許を有する者	
	②作業環境測定士の資格を有する者	
	③大学又は高等専門学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後6ヶ月以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者	
	④高等学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後1年以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる措置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者	
	⑤局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に2年以上従事した経験を有する者	
	⑥特定化学物質等作業主任者、石綿作業主任者、鉛作業主任者又は有機溶剤作業主任者の資格を有する者であって、当該作業に1年以上従事した経験を有する者	
	⑦粉じん作業インストラクターの資格を有する者	
	⑧その他これらと同等以上の知識及び経験を有すると認められる者	

※粉じんについては法定ではないが、法定同等として実施する。
(詳細はBSA250511「粉じん作業の衛生管理基準」による。)



[別表14] プッシュプル型換気装置

項目	詳細	
プッシュプル型換気装置の定義	一様な捕捉気流（有害物質の発散源又はその付近を通り吸込み型フードに向かう気流であって、捕捉面での気流の方向及び風速が一樣であるもの）を形成させ、当該気流によって発散源から発散する有害物質を捕捉し吸込み側フードに取り込んで排出する装置。	
法定定期自主検査	年次定期自主検査 【有機則第20条の2】 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査者の条件1欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 プッシュプル型換気装置年次定期自主検査表（安全-120） 検査項目 ①フード、ダクト及びファンの摩耗、腐食、くぼみその他損傷の有無及びその程度【共通】 ②ダクト及び送風機及び排風機におけるじんあいのたい積状態【有機、特化】 ③ダクト及び送風機及び排風機における粉じんのたい積状態【粉じん】 ④送風機及び排風機の注油状態【有機】 ⑤ダクトの接続部における緩みの有無【共通】 ⑥電動機とファンを連結するベルトの作動状態【共通】 ⑦送気、吸気及び排気的能力【共通】 ⑧前記①～⑦に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項【共通】
	月次定期自主検査 【有機則第19条の2】 【特化則第28条】 【鉛則第34条】 【粉じん則】※	頻度 1ヶ月以内ごとに1回（鉛の場合は、1週間以内ごとに1回） 検査者 当該作業主任者 使用帳票 局所排気装置等月次定期自主検査表（安全-121） 検査項目 ①装置の主要部分の損傷 ②装置の主要部分の脱落 ③装置の主要部分の腐食 ④異常音の有無 ⑤プッシュプル型換気装置の効果の確認
	作業開始前点検	—
	使用再開時自主検査 【有機則第20条】 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年を超える期間使用しないプッシュプル型換気装置について、その使用を再び開始する際 検査者 検査者の条件1欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 プッシュプル型換気装置年次定期自主検査表（安全-120） 検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑧の事項
	初使用時点検、 改造・修理時点検 【有機則第22条】 【特化則第33条】 【粉じん則第19条】 【鉛則第37条】	頻度 プッシュプル型換気装置を初めて使用する時、又は分解して改造もしくは修理を行った時 検査者 検査者の条件1欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 <有機溶剤、鉛の場合> プッシュプル型換気装置初使用時等点検表（安全-122） <特定化学物質、粉じんの場合> プッシュプル型換気装置年次定期自主検査表（安全-120） 検査項目 <有機溶剤、鉛の場合> ①ダクト及び排風機におけるじんあいのたい積状態 ②ダクトの接続部における緩みの有無 ③送気、吸気及び排気的能力 ④前記①～③に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項 <特定化学物質、粉じんの場合> ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑧の事項
	以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修（局所排気装置等定期自主検査者研修）を修了した者	
	①衛生工学衛生管理者の免許を有する者	
	②作業環境測定士の資格を有する者	
	③大学又は高等専門学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後6ヶ月以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者	
	④高等学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後1年以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる措置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者	
	⑤局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に2年以上従事した経験を有する者	
	⑥特定化学物質等作業主任者、石綿作業主任者、鉛作業主任者又は有機溶剤作業主任者の資格を有する者であって、当該作業に1年以上従事した経験を有する者	
	⑦粉じん作業インストラクターの資格を有する者	
	⑧その他これらと同等以上の知識及び経験を有すると認められる者	

※粉じんについては法定ではないが、法定同等として実施する。
 （詳細はBSA250511「粉じん作業の衛生管理基準」による。）

検査者の条件



[別表15] 除じん装置

項目	詳細	
除じん装置の定義	局所排気装置またはブッシュプル型換気装置によって吸い込んだ空気を大気に排出する前に、空気中に含まれる有害な粒子状物質（ミスト、粉じん、ダスト、ヒューム）を捕集する装置	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査者の条件 欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 除じん装置年次定期自主検査表（安全-123） 検査項目 <ul style="list-style-type: none"> ＜特定化学物質の場合＞ ①構造部分の摩耗、腐食、破損の有無及びその程度 ②除じん装置内におけるじんあいのたい積状態 ③ろ過除じん方式の除じん装置にあっては、ろ材の破損又はろ材取付部等の緩みの有無 ④処理薬剤、洗浄水の噴出量、内部充てん物等の適否 ⑤処理能力 ⑥前記①から⑤までに掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項 ＜粉じんの場合＞ ①構造部分の摩耗、腐食、破損の有無及びその程度 ②内部における粉じんのたい積状態 ③ろ過除じん方式の除じん装置にあっては、ろ材の破損又はろ材取付部等のゆるみの有無 ④処理能力 ⑤前記①から④までに掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項 ＜鉛の場合＞ ①構造部分の摩耗、腐食及び破損の有無並びにその程度 ②除じん装置内部におけるじんあいのたい積状態 ③ろ過除じん方式の除じん装置にあっては、ろ材の破損、ろ材取付部等の緩みの有無 ④処理能力 ⑤前記①から④に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項
	月次定期自主検査 【特化則第28条】 【鉛則第34条】 【粉じん則】※	頻度 1ヶ月以内ごとに1回 （鉛の場合は、1週間以内ごとに1回） 検査者 当該作業主任者 使用帳票 除じん装置月次定期自主検査表（安全-124） 検査項目 <ul style="list-style-type: none"> ①装置の主要部分の損傷 ②装置の主要部分の脱落 ③装置の主要部分の腐食 ④異常音の有無 ⑤排出処理のための装置等の効果の確認
	作業開始前点検	-
	使用再開時自主検査 【特化則第30条】 【粉じん則第17条】 【鉛則第35条】	頻度 1年を超える期間使用しない除じん装置について、その使用を再び開始する際 検査者 検査者の条件 欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 除じん装置年次定期自主検査表（安全-123） 検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑥の事項
	初使用時点検、 改造・修理時点検 【特化則第33条】 【粉じん則第19条】 【鉛則第37条】	頻度 除じん装置を初めて使用する時、又は分解して改造もしくは修理を行った時 検査者 検査者の条件 欄に掲げる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 <ul style="list-style-type: none"> ＜特定化学物質、粉じんの場合＞ 除じん装置年次定期自主検査表（安全-123） ＜鉛の場合＞ 除じん装置初使用時等点検表（安全-125） 検査項目 <ul style="list-style-type: none"> ＜特定化学物質の場合＞ ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑥の事項 ＜粉じんの場合＞ ①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項 ＜鉛の場合＞ ①除じん装置内部におけるじんあいのたい積状態 ②ろ過除じん方式の除じん装置にあっては、ろ材の破損の有無 ③処理能力 ④前記①～③に掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項

※粉じんについては法定ではないが、法定同等として実施する。

（詳細はBSA250511「粉じん作業の衛生管理基準」による。）



つづき

検査者の条件	以下のいずれかに該当する者で、厚生労働大臣が定める研修（局所排気装置等定期自主検査者研修）を修了した者
	①衛生工学衛生管理者の免許を有する者
	②作業環境測定士の資格を有する者
	③大学又は高等専門学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後6ヶ月以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者
	④高等学校において、理科系統の正規の課程を修めて卒業した者で、その後1年以上局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる措置の設計又は検査の実務に従事した経験を有する者
	⑤局所排気装置、プッシュプル型換気装置、除じん装置、空気調和設備もしくはこれらに準ずる装置の設計又は検査の実務に2年以上従事した経験を有する者
	⑥特定化学物質等作業主任者、石綿作業主任者、鉛作業主任者又は有機溶剤作業主任者の資格を有する者であって、当該作業に1年以上従事した経験を有する者
	⑦粉じん作業インストラクターの資格を有する者
	⑧その他これらと同等以上の知識及び経験を有すると認められる者

[別表16] 排ガス処理装置、廃液処理装置

項目		詳細		
排ガス処理装置、廃液処理装置の定義		<p><排ガス処理装置> 局所排気装置またはプッシュプル型換気装置によって吸い込んだ空気を大気に排出する前に、空気中に含まれる有害な気体物質（ガス、蒸気）を除去する装置</p> <p><廃液処理装置> 廃液を排水する前に、液中に含まれる有害な液体物質（特定化学物質）を除去（中和、酸化・還元、活性汚泥、凝集沈でん）する装置</p>		
法定定期自主検査	年次定期自主検査 【特化則第30条】	頻度	1年以内ごとに1回	
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）	
		使用帳票	排ガス処理装置、廃液処理装置年次定期自主検査表（安全-126）	
		検査項目	①構造部分の摩耗、腐食、破損の有無及びその程度 ②排ガス処理装置にあっては、当該装置内におけるじんあいのたい積状態 ③処理薬剤、洗浄水の噴出量、内部充てん物等の適否 ④処理能力 ⑤前記①から④までに掲げるもののほか、性能を保持するため必要な事項	
	月次定期自主検査 【特化則第28条】	頻度	1ヶ月以内ごとに1回	
		検査者	当該作業主任者	
		使用帳票	排ガス処理装置、廃液処理装置月次定期自主検査表（安全-127）	
		検査項目	①装置の主要部分の損傷 ②装置の主要部分の脱落 ③装置の主要部分の腐食 ④異常音の有無 ⑤対象物質の漏えいの有無 ⑥廃液処理用の調整剤の異常の有無 ⑦排出処理のための装置等の効果の確認	
	作業開始前点検		-	
	使用再開時自主検査 【特化則第30条】	頻度	1年を超える期間使用しない排ガス処理装置、廃液処理装置について、その使用を再び開始する際	
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）	
		使用帳票	排ガス処理装置、廃液処理装置年次定期自主検査表（安全-126）	
検査項目		①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項		
初使用時点検、改造・修理時点検 【特化則第33条】	頻度	排ガス処理装置、廃液処理装置を初めて使用する時、又は分解して改造もしくは修理を行った時		
	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）		
	使用帳票	排ガス処理装置、廃液処理装置年次定期自主検査表（安全-126）		
	検査項目	①年次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項		



[別表17] ガンマ線照射装置

項目		詳細	
ガンマ線照射装置の定義		ガンマ線（放射線の一種で波長がおよそ10pmよりも短い電磁波）を照射する装置。	
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【電離則 第18条の6】	頻度	6ヶ月以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	ガンマ線照射装置年次定期自主検査表（安全-130）
	月次定期自主検査 【電離則 第18条の5】	検査項目	①線源容器のしゃへい能力の異常の有無
		頻度	1ヶ月以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	ガンマ線照射装置月次定期自主検査表（安全-131）
		検査項目	①線源容器のシャッター及びこれを開閉するための装置の異常の有無 ②放射線源のホルダーの固定装置の異常の有無 ③放射線源送し装置を有するものにあつては、当該装置と線源容器との接続部の異常の有無 ④放射線源送し装置又は放射線源の位置を調整する遠隔操作装置を有するものにあつては、当該装置の異常の有無
	作業開始前点検	-	
	使用再開時自主検査 【電離則 第18条の6】 【電離則 第18条の5】	頻度	1ヶ月または6ヶ月を超える期間使用しないガンマ線照射装置について、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	（6ヶ月を超えた場合） ガンマ線照射装置年次定期自主検査表（安全-130） （1ヶ月を超えた場合） ガンマ線照射装置月次定期自主検査表（安全-131）
		検査項目	（6ヶ月を超えた場合） ①線源容器のしゃへい能力の異常の有無 （1ヶ月を超えた場合） ①月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項



[別表18] ボイラー

項目		詳細																														
ボイラーの定義 【安衛令第1条】		[備考]欄による。																														
法定定期自主検査	性能検査 【ボイ則第38条】 【ボイ則第39条】	ボイラー検査証の有効期間（更新後通常1年間）が切れる前に、登録性能検査機関において、性能検査を行う。 性能検査の申請は、「ボイラー性能検査申請書」（様式第19号）にて行い、所轄労働基準監督署に提出する。（「ボイラー性能検査申請書」は、グローバル安全衛生環境部ホームページ「届出関係帳票No.58」にて掲載）																														
	月次定期自主検査 【ボイ則第32条】	頻度	1ヶ月以内ごとに1回																													
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）																													
		使用帳票	ボイラー月次定期自主検査表（安全-068）																													
		検査項目	以下に掲げる項目																													
		<table><tr><th colspan="2">項目</th><th>点検事項</th></tr><tr><td rowspan="5">燃焼装置</td><td>油加熱器及び燃料送給装置</td><td>損傷の有無</td></tr><tr><td>バーナ</td><td>汚れ又は損傷の有無</td></tr><tr><td>ストレーナ</td><td>つまり又は損傷の有無</td></tr><tr><td>バーナタイル及び炉壁</td><td>汚れ又は損傷の有無</td></tr><tr><td>ストーカ及び火格子</td><td>損傷の有無</td></tr><tr><td rowspan="2">自動制御装置</td><td>煙道</td><td>漏れその他の損傷の有無及び通風圧の異常の有無</td></tr><tr><td>起動及び停止の装置、火炎検出装置、燃料しゃ断装置、水位調節装置並びに圧力調節装置</td><td>機能の異常の有無</td></tr><tr><td rowspan="4">附属装置・附属品</td><td>電気配線</td><td>端子の異常の有無</td></tr><tr><td>給水装置</td><td>損傷の有無及び作動の状態</td></tr><tr><td>蒸気管及びこれに附属する弁</td><td>損傷の有無及び保温の状態</td></tr><tr><td>空気予熱器</td><td>損傷の有無</td></tr><tr><td>水処理装置</td><td>機能の異常の有無</td></tr></table>		項目		点検事項	燃焼装置	油加熱器及び燃料送給装置	損傷の有無	バーナ	汚れ又は損傷の有無	ストレーナ	つまり又は損傷の有無	バーナタイル及び炉壁	汚れ又は損傷の有無	ストーカ及び火格子	損傷の有無	自動制御装置	煙道	漏れその他の損傷の有無及び通風圧の異常の有無	起動及び停止の装置、火炎検出装置、燃料しゃ断装置、水位調節装置並びに圧力調節装置	機能の異常の有無	附属装置・附属品	電気配線	端子の異常の有無	給水装置	損傷の有無及び作動の状態	蒸気管及びこれに附属する弁	損傷の有無及び保温の状態	空気予熱器	損傷の有無	水処理装置
	項目		点検事項																													
	燃焼装置	油加熱器及び燃料送給装置	損傷の有無																													
		バーナ	汚れ又は損傷の有無																													
		ストレーナ	つまり又は損傷の有無																													
バーナタイル及び炉壁		汚れ又は損傷の有無																														
ストーカ及び火格子		損傷の有無																														
自動制御装置	煙道	漏れその他の損傷の有無及び通風圧の異常の有無																														
	起動及び停止の装置、火炎検出装置、燃料しゃ断装置、水位調節装置並びに圧力調節装置	機能の異常の有無																														
附属装置・附属品	電気配線	端子の異常の有無																														
	給水装置	損傷の有無及び作動の状態																														
	蒸気管及びこれに附属する弁	損傷の有無及び保温の状態																														
	空気予熱器	損傷の有無																														
水処理装置	機能の異常の有無																															
作業開始前点検	-																															
使用再開時自主検査 【ボイ則第32条】	頻度	1ヶ月を超える期間使用しないボイラーについて、その使用を再び開始する際																														
	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 （不在の場合、メーカーに依頼）																														
	使用帳票	ボイラー月次定期自主検査表（安全-068）																														
	検査項目	①月次定期自主検査欄に掲げる事項																														
備考	蒸気ボイラー及び温水ボイラーのうち、次に掲げるボイラー以外のものをいう。 ①ゲージ圧力0.1MPa以下で使用する蒸気ボイラーで、厚生労働省令で定めるところにより算定した伝熱面積（以下「伝熱面積」という）が0.5㎡以下のもの又は胴の内径が200mm以下で、かつ、その長さが400mm以下のもの ②ゲージ圧力0.3MPa以下で使用する蒸気ボイラーで、内容積が0.0003m³以下のもの ③伝熱面積が2㎡以下の蒸気ボイラーで、大気に開放した内径が25mm以上の蒸気管を取り付けたもの又はゲージ圧力0.05MPa以下で、かつ、内径が25mm以上のU形立管を蒸気部に取り付けたもの ④ゲージ圧力0.1MPa以下の温水ボイラーで、伝熱面積が4㎡以下のもの ⑤ゲージ圧力1MPa以下で使用する貫流ボイラー（管寄せの内径が150mmを超える多管式のものを除く）で、伝熱面積が5㎡以下のもの（気水分離器を有するものにあつては、当該気水分離器の内径が200mm以下で、かつ、その内容積が0.02㎡以下のものに限る） ⑥内容積が0.004㎡以下の貫流ボイラー（管寄せ及び気水分離器のいずれをも有しないものに限る）で、その使用する最高のゲージ圧力をMPa表した数値と内容積をm³で表した数値との積が0.02以下のもの																															



[別表19] 小型ボイラー

項目		詳細
小型ボイラーの定義 【安衛令第1条】		[備考]欄による。
法定 定期 自主 検査	年次定期自主検査 【ボイ則第94条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 小型ボイラー年次定期自主検査表(安全-069) 検査項目 ①ボイラー本体の損傷又は異常の有無 ②燃焼装置の損傷又は異常の有無 ③自動制御装置及び附属品の損傷又は異常の有無
	月次定期自主検査	-
	作業開始前点検	-
	使用再開時自主検査 【ボイ則第94条】	頻度 1年を超える期間使用しない小型ボイラーについて、その使用を再び開始する際 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 小型ボイラー年次定期自主検査表(安全-069) 検査項目 ①年次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
	ボイラーのうち、次に掲げるボイラーをいう。 ①ゲージ圧力0.1MPa以下で使用する蒸気ボイラーで、伝熱面積が 1m^2 以下のもの又は胴の内径が300mm以下で、かつ、その長さが600mm以下のもの ②伝熱面積が 3.5m^2 以下の蒸気ボイラーで、大気に開放した内径が25mm以上の蒸気管を取り付けたもの又はゲージ圧力0.05MPa以下で、かつ、内径が25mm以上のU形立管を蒸気部に取り付けたもの ③ゲージ圧力0.1MPa以下の温水ボイラーで、伝熱面積が 8m^2 以下のもの ④ゲージ圧力0.2MPa以下の温水ボイラーで、伝熱面積が 2m^2 以下のもの ⑤ゲージ圧力1MPa以下で使用する貫流ボイラー(管寄せの内径が150mmを超える多管式のものを除く)で、伝熱面積が 10m^2 以下のもの(気水分離器を有するものにあつては、当該気水分離器の内径が300mm以下で、かつ、その内容積が 0.07m^3 以下のものに限る)	

[別表20] 第一種圧力容器

項目		詳細
第一種圧力容器の定義 【安衛令第1条】		[備考]欄による。
法定 定期 自主 検査	性能検査 【ボイ則第73条】 【ボイ則第74条】	第一種圧力容器検査証の有効期間(更新後通常1年間)が切れる前に、登録性能検査機関において、性能検査を行う。 性能検査の申請は、「第一種圧力容器性能検査申請書」(様式第19号)にて行い、所轄労働基準監督署に提出する。(「第一種圧力容器性能検査申請書」は、グローバル安全衛生環境部ホームページ「届出関係帳票No.59」にて掲載)
	月次定期自主検査 【ボイ則第67条】	頻度 1ヶ月以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 第一種圧力容器月次定期自主検査表(安全-070) 検査項目 ①本体の損傷の有無 ②ふたの締付けボルトの摩耗の有無 ③管及び弁の損傷の有無
	作業開始前点検	-
	使用再開時自主検査 【ボイ則第67条】	頻度 1ヶ月を超える期間使用しない第一種圧力容器について、その使用を再び開始する際 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼) 使用帳票 第一種圧力容器月次定期自主検査表(安全-070) 検査項目 ①月次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
	次に掲げる容器(ゲージ圧力0.1MPa以下で使用する容器で、内容積が 0.04m^3 以下のもの又は胴の内径が200mm以下で、かつ、その長さが1,000mm以下のもの及びその使用する最高のゲージ圧力をMPaで表した数値と内容積を m^3 で表した数値との積が0.004以下の容器を除く)をいう。 ①蒸気その他の熱媒を受け入れ、又は蒸気を発生させて固体又は液体を加熱する容器で、容器内の圧力が大気圧を超えるもの(②又は③に掲げる容器を除く) ②容器内における化学反応、原子核反応その他の反応によって蒸気が発生する容器で、容器内の圧力が大気圧を超えるもの ③容器内の液体の成分を分離するため、当該液体を加熱し、その蒸気を発生させる容器で、容器内の圧力が大気圧を超えるもの ④前記①～③までに掲げる容器のほか、大気圧における沸点を超える温度の液体をその内部に保有する容器	



[別表21] 第二種圧力容器

項目		詳細	
第二種圧力容器の定義 【安衛令第1条】		[備考]欄による。	
法定定期自主検査	性能検査	-	
	年次定期自主検査 【ボイ則第88条】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	第二種圧力容器年次定期自主検査表 (安全-093)
		検査項目	①本体の損傷の有無 ②ふたの締付けボルトの摩耗の有無 ③管及び弁の損傷の有無
	月次定期自主検査	-	
	作業開始前点検	-	
使用再開時自主検査 【ボイ則第88条】		頻度	1年を超える期間使用しない第二種圧力容器について、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	第二種圧力容器年次定期自主検査表 (安全-093)
		検査項目	①年次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
備考	ゲージ圧力0.2MPa以上の気体をその内部に保有する容器（第一種圧力容器を除く）のうち、次に掲げる容器をいう。		
	①内容積が0.04m ³ 以上の容器		
	②胴の内径が200mm以上で、かつ、その長さが1000mm以上の容器		

[別表22] 小型圧力容器

項目		詳細	
小型圧力容器の定義 【安衛令第1条】		[備考]欄による。	
法定定期自主検査	性能検査	-	
	年次定期自主検査 【ボイ則第94条】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	小型圧力容器年次定期自主検査表 (安全-128)
		検査項目	①本体 ②ふたの締付けボルト ③管及び弁の損傷又は摩耗の有無
	月次定期自主検査	-	
	作業開始前点検	-	
使用再開時自主検査 【ボイ則第94条】		頻度	1年を超える期間使用しない小型圧力容器について、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	小型圧力容器年次定期自主検査表 (安全-128)
		検査項目	①年次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項
備考	第一種圧力容器のうち、次に掲げる容器をいう。		
	①ゲージ圧力0.1MPa以下で使用する容器で、内容積が0.2m ³ 以下のもの又は胴の内径が500mm以下で、かつ、その長さが1000mm以下のもの		
	②その使用する最高のゲージ圧力をMPaで表した数値と内容積をm ³ で表した数値との積が0.02以下の容器		



[別表23] クレーン（吊上荷重3.0t以上）

項目	詳細
クレーンの定義	吊上荷重（クレーンの構造と材料に応じて負荷させることができる最大の荷重）が3.0t以上のクレーン。（ただし、スタッカー式クレーンにおいては吊上荷重が1.0t以上のものをいう）
性能検査 【クレ則第40条】 【クレ則第41条】	クレーン検査証の有効期間（更新後通常2年間）が切れる前に、登録性能検査機関において、性能検査を行う。 性能検査の申請は、「クレーン性能検査申請書」（様式第11号）にて行い、所轄労働基準監督署に提出する。（「クレーン性能検査申請書」は、グローバル安全衛生環境部ホームページ「届出関係帳票No.60」にて掲載）
年次定期自主検査 【クレ則第34条】	頻度 1年以内ごとに1回 検査者 クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、メーカーと協議しながら検査項目等を決めるものとする 使用帳票 検査項目
月次定期自主検査 【クレ則第35条】	頻度 1ヶ月以内ごとに1回 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可。ただし、クレーン本体のワイヤーロープの点検項目は、天井クレーンワイヤーロープ月例点検報告書（安全-066）に記載された検査項目を満足しているものとする。 検査項目 ①巻過防止装置その他の安全装置、過負荷警報装置その他の警報装置、ブレーキ及びクラッチの異常の有無 ②ワイヤロープ及びつりチェーンの損傷の有無 ③フック、グラブバケット等のつり具の損傷の有無 ④配線、集電装置、配電盤、開閉器及びコントローラーの異常の有無 ⑤ケーブルクレーンにあっては、メインロープ、レールロープ及びガイロープを緊結している部分の異常の有無並びにウィンチの据付けの状態
作業開始前点検 【クレ則第36条】	頻度 作業を開始する前 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 使用帳票 クレーン作業開始前点検表（安全-071） 検査項目 ①巻過防止装置、ブレーキ、クラッチ及びコントローラーの機能 ②ランウェイの上及びトロリが横行するレールの状態 ③ワイヤロープが通っている箇所の状態
使用再開時自主検査 【クレ則第34条】 【クレ則第35条】	頻度 1ヶ月または1年を超える期間使用しないクレーンについて、その使用を再び開始する際 検査者 検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼） 使用帳票 検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可 検査項目 ①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項
地震・強風後点検 【クレ則第37条】	頻度 震度4以上の地震の後に作業を行うとき、又は屋外に設置されているクレーンを用いて瞬間風速が毎秒30mを超える風が吹いた後に作業を行うとき 検査者 ペンタント操作による作動確認や目視確認で行える容易な点検については点検項目の可否判断ができる者が実施。専門性あるいは危険を伴う点検は専門メーカーやクレーンメーカーに点検を依頼 使用帳票 クレーン地震・強風後点検表（安全-072） 検査項目 クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、日本クレーン協会推奨の項目を用いる（上記点検表参照）

法定定期自主検査



[別表24] クレーン（吊上荷重0.5t以上3.0t未満）

項目		詳細	
クレーンの定義		吊上荷重（クレーンの構造と材料に応じて負荷させることができる最大の荷重）が0.5t以上3.0t未満のクレーン。（ただし、スタッカー式クレーンにおいては吊上荷重が0.5t以上1.0t未満のものをいう）	
法定 定期 自主 検査	性能検査	-	
	年次定期自主検査【クレ則第34条】	頻度	1年以内ごとに1回、定期的に、次の事項について自主検査を行う。
		検査者	クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、
		使用帳票	メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする
		検査項目	
	月次定期自主検査【クレ則第35条】	頻度	1ヶ月以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可。ただし、クレーン本体のワイヤーロープの点検項目は、天井クレーンワイヤーロープ月例点検報告書（安全-066）に記載された検査項目を満足しているものとする。
		検査項目	①巻過防止装置その他の安全装置、過負荷警報装置その他の警報装置、ブレーキ及びクラッチの異常の有無 ②ワイヤーロープ及びつりチェーンの損傷の有無 ③フック、グラブバケット等のつり具の損傷の有無 ④配線、集電装置、配電盤、開閉器及びコントローラーの異常の有無 ⑤ケーブルクレーンにあっては、メインロープ、レールロープ及びガイロープを緊結している部分の異常の有無並びにウィンチの据付けの状態
	作業開始前点検	頻度	作業を開始する前
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	クレーン作業開始前点検表（安全-071）
		検査項目	①巻過防止装置、ブレーキ、クラッチ及びコントローラーの機能 ②ランウェイの上及びトロリが横行するレールの状態 ③ワイヤーロープが通っている箇所の状態
	使用再開時自主検査【クレ則第34条】 【クレ則第35条】	頻度	1ヶ月または1年を超える期間使用しないクレーンについて、その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）
		使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可
		検査項目	①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～⑤の事項
	地震・強風後点検【クレ則第37条】	頻度	震度4以上の地震の後に作業を行うとき、又は屋外に設置されているクレーンを用いて瞬間風速が毎秒30mを超える風が吹いた後に作業を行うとき
		検査者	ペンダント操作による作動確認や目視確認で行える容易な点検については点検項目の可否判断ができる者が実施。専門性あるいは危険を伴う点検は専門メーカーやクレーンメーカーに点検を依頼
		使用帳票	クレーン地震・強風後点検表（安全-072）
		検査項目	クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、日本クレーン協会推奨の項目を用いる（上記点検表参照）



[別表25]エレベーター（積載荷重1.0 t以上）

項目	詳細								
エレベーターの定義	搬器の床面積が 1m^2 を超え、かつ、その天井の高さが1.2mを超え、積載荷重（人又は荷をのせて上昇させることができる最大の荷重）1.0 t以上のもの。								
性能検査 【クレ則第159条】 【クレ則第160条】	エレベーター検査証の有効期間（更新後通常1年間）が切れる前に、登録性能検査機関において、性能検査を行う。 性能検査の申請は、「エレベーター性能検査申請書」（様式第11号）にて行い、所轄労働基準監督署に提出する。（「性能検査申請書」は、グローバル安全衛生環境部ホームページ「届出関係帳票No.61」にて掲載）								
年次定期自主検査	-								
月次定期自主検査 【クレ則第155条】	<table border="1"> <tr> <td>頻度</td><td>1ヶ月以内ごとに1回</td></tr> <tr> <td>検査者</td><td>検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）</td></tr> <tr> <td>使用帳票</td><td>検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可</td></tr> <tr> <td>検査項目</td><td>①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無</td></tr> </table>	頻度	1ヶ月以内ごとに1回	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）	使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可	検査項目	①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無
頻度	1ヶ月以内ごとに1回								
検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）								
使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可								
検査項目	①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無								
作業開始前点検	-								
使用再開時自主検査 【クレ則第155条】	<table border="1"> <tr> <td>頻度</td><td>1ヶ月を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際</td></tr> <tr> <td>検査者</td><td>検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）</td></tr> <tr> <td>使用帳票</td><td>検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可</td></tr> <tr> <td>検査項目</td><td>①月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項</td></tr> </table>	頻度	1ヶ月を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）	使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可	検査項目	①月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項
頻度	1ヶ月を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際								
検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）								
使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可								
検査項目	①月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項								

[別表26]エレベーター（積載荷重0.25 t以上1.0 t未満）

項目	詳細								
エレベーターの定義	搬器の床面積が 1m^2 を超え、かつ、その天井の高さが1.2mを超え、積載荷重（人又は荷をのせて上昇させることができる最大の荷重）0.25 t以上1.0 t未満のもの。								
性能検査	-								
年次定期自主検査 【クレ則第154条】	<table border="1"> <tr> <td>頻度</td><td>1年以内ごとに1回</td></tr> <tr> <td>検査者</td><td>クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、</td></tr> <tr> <td>使用帳票</td><td>メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする</td></tr> <tr> <td>検査項目</td><td></td></tr> </table>	頻度	1年以内ごとに1回	検査者	クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、	使用帳票	メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする	検査項目	
頻度	1年以内ごとに1回								
検査者	クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、								
使用帳票	メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする								
検査項目									
月次定期自主検査 【クレ則第155条】	<table border="1"> <tr> <td>頻度</td><td>1ヶ月以内ごとに1回</td></tr> <tr> <td>検査者</td><td>検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）</td></tr> <tr> <td>使用帳票</td><td>検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可</td></tr> <tr> <td>検査項目</td><td>①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無</td></tr> </table>	頻度	1ヶ月以内ごとに1回	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）	使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可	検査項目	①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無
頻度	1ヶ月以内ごとに1回								
検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）								
使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可								
検査項目	①ファイナルリミットスイッチ、非常止めその他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態 ④屋外に設置されているエレベーターにあつては、ガイロープを緊結している部分の異常の有無								
作業開始前点検	-								
使用再開時自主検査 【クレ則第154条】 【クレ則第155条】	<table border="1"> <tr> <td>頻度</td><td>1ヶ月または1年を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際</td></tr> <tr> <td>検査者</td><td>検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）</td></tr> <tr> <td>使用帳票</td><td>検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可</td></tr> <tr> <td>検査項目</td><td>①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項</td></tr> </table>	頻度	1ヶ月または1年を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際	検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）	使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可	検査項目	①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項
頻度	1ヶ月または1年を超える期間使用しないエレベーターについて、その使用を再び開始する際								
検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者（不在の場合、メーカーに依頼）								
使用帳票	検査項目欄に掲げられている項目が記載されている帳票であれば、どのような様式でも可								
検査項目	①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～④の事項								



[別表27]簡易リフト（積載荷重0.25 t 以上）

項目		詳細	
簡易リフトの定義 【安衛令第1条】		エレベーターのうち、荷のみを運搬することを目的とするエレベーターで、搬器の床面積が1㎡以下又はその天井の高さが1.2m以下で積載荷重0.25 t 以上のもの。	
法定 定期 自主 検査	性能検査	-	
	年次定期自主検査 【クレ則第208条】	頻度	1年以内ごとに1回
		検査者	クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、
		使用帳票	メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする
		検査項目	
	月次定期自主検査 【クレ則第209条】	頻度	1ヶ月以内ごとに1回
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	簡易リフト月次定期自主検査表（安全-075）
		検査項目	①巻過防止装置その他の安全装置、ブレーキ及び制御装置の異常の有無 ②ワイヤロープの損傷の有無 ③ガイドレールの状態
	作業開始前点検 【クレ則第210条】	頻度	作業を開始する前
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者
		使用帳票	簡易リフト作業開始前点検表（安全-074）
		検査項目	①ブレーキの機能
	使用再開時自主検査 【クレ則第208条】 【クレ則第209条】	頻度	1ヶ月または1年を超える期間使用しないエレベーターについて、 その使用を再び開始する際
		検査者	検査項目欄に掲げられている項目の可否判断ができる者 (不在の場合、メーカーに依頼)
		使用帳票	(1年を超えた場合) クレーン等安全規則には、指定された検査項目の記載がないため、 メーカーと協議しながら検査項目等を定めるものとする (1ヶ月を超えた場合) 簡易リフト月次定期自主検査表（安全-075）
		検査項目	①（1年を超えた場合）年次定期自主検査欄に準ずる事項 ②（1ヶ月を超えた場合）月次定期自主検査欄に掲げる①～③の事項

[別表28]コードリール

項目		詳細	
コードリールの定義		電動工具用のコード巻き上げ装置とコンセントを組み合わせた円筒形状の移動電線式の電源接続道具とする。	
法定 定期 自主 検査	性能検査	-	
	年次定期自主検査	頻度	6ヶ月以内ごとに1回（6月と12月に実施すること）
		検査者	点検者は、所属職場の室長以上に選任されたものとする。
		使用帳票	コードリール6ヶ月点検（安全-055）
		検査項目	①差込みブラクの外観点検 ②電気コードの外観点検 ③コード巻き上げ装置の外観点検 ④漏電遮断機の作動確認 ⑤コードリールのアースの導通確認 ⑥コードリールの絶縁抵抗値の測定 ⑦コードリール点検済シール確認
	月次定期自主検査 作業開始前点検	頻度	作業を開始する前
		検査者	点検者は、所属職場の室長以上に選任されたものとする。
		使用帳票	コードリール作業開始前点検表（安全-056）
		検査項目	①差込みブラクの外観点検 ②電気コードの外観点検 ③漏電遮断機の作動確認 ④コード巻き上げ装置の外観点検
	使用再開時自主検査	-	

